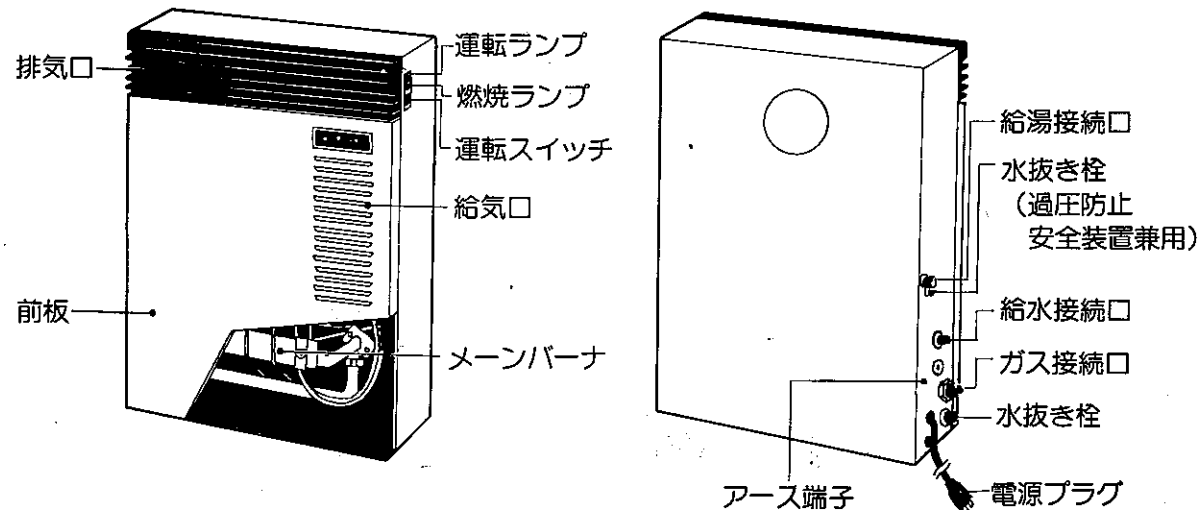
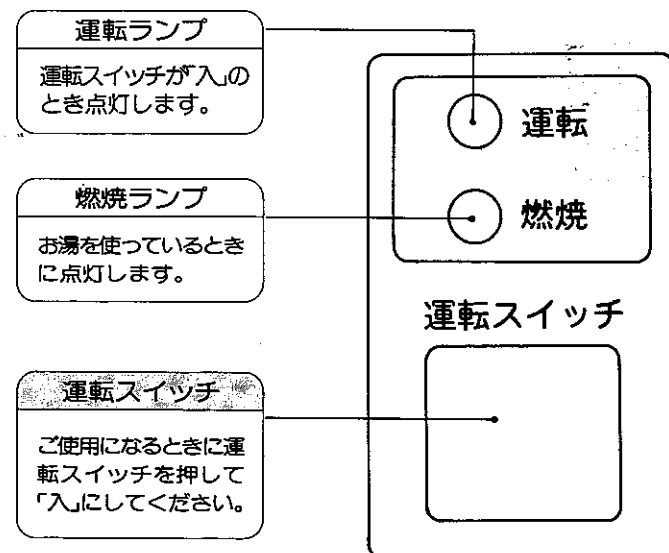


各部の名称

■外観・構造



■操作部



松下電器産業株式会社
松下住設機器株式会社 給湯システム事業部
〒639-11 奈良県大和郡山市筒井町800番地
電話 大和郡山 (07435) -6-1121 (大代表)

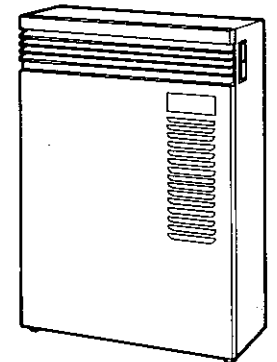
Y1186-0

National

ナショナルガス給湯機

品番 **GW-16R5D**
GW-16R6D 〈パナソーラ接続可能型〉

工事説明書



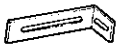
* 工事をされる方へのお願い

この器具を正しく安全にご使用いただくために、この説明書をよくお読みになって、指定された工事を行なってください。この説明書は必ず需要家様にお渡しください。

も	く	じ	ページ
開	こ	ん	1
設	置	前	1
器	具	の	7
給	水	・	8
給	湯	配	8
管	工	事	14
ガ	ス	配	15
管	工	事	15
電	気	配	16
線	工	事	16
設	置	工	16
事	後	の	16
点	検	確	16
認			16
試	点	火	16
お	よ	び	16
試	運	転	16
仕	様		17
外	形	寸	18
法	図		18
各	部	の	裏
名	称		表

開こん

●附属部品の確認をしてください。

番号	部 品 名	数 量	形 状	備 考
①	固 定 金 具	1		
②	木 ね じ	2		固定金具取付用
③	P Y プ ラ グ	2		固定金具取付用
④	ア ー ス 棒	1		

設置前のご注意

■設置する器具の確認

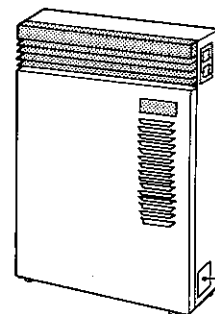
(1)使用ガスに関する事項

設置する器具が使用するガス（ガスグループ）に適合していることを確認してください。

(2)使用電源に関する事項

器体（銘板）に表示してある電源（電圧・周波数）以外の電源では使用しないでください。

（注）この部分を必ずご確認ください。



【LPガス用銘板】

ガス消費量	2.52kg/h	型式名	GW-16R5D
使用電源	AC100V・50/60Hz・49W		
LPガス用 屋外用		松下住設機器株式会社	
凍結予防ヒータ動作時96W	松下電器産業株式会社		

【都市ガス用銘板】

ガス区分		型式名	GW-16R5D
ガス消費量 (kcal/h)			
使用電源	AC100V・50/60Hz・47W		
都市ガス用 屋外用		松下住設機器株式会社	
凍結予防ヒータ動作時96W	松下電器産業株式会社		

ガスの種類	LPガス
都市ガス (ガスグループ)	4A・4B・4C 5A・5AN・5B・5C 6A・6B・6C・7C 12A・13A

(3)パナソーラへの接続について

- GW-16R5Dはソーラ（太陽熱温水）システムに接続することはできません。
- ソーラ（太陽熱温水）システムに接続される場合はソーラ接続可能型GW-16R6Dをお求めください。

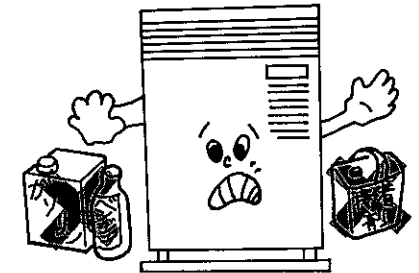
設置前のご注意

■設置場所の確認

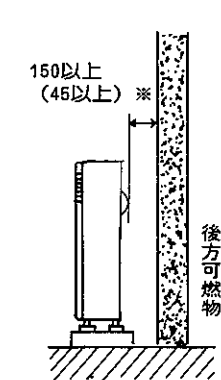
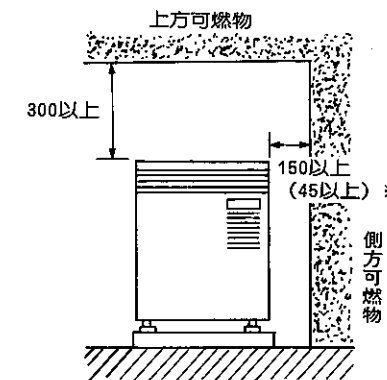
設置場所を決められるときは、次の事項をよく確認してから決めてください。

(1)火災予防について

- ガソリン、ベンジン、接着剤など引火性の危険物を扱う場所には設置しないでください。



- 器具を設置する場所の周囲の壁・天井などが防火上安全なものであるか、または防火上有効な間隔をとることができる場所にしてください。



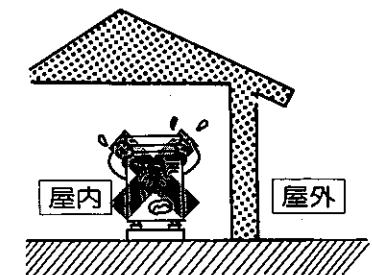
（単位：mm）

※（ ）内は周囲の壁が不燃材の場合の寸法です。

- 洗濯の物干し場など燃えやすいもののあるところには設置しないでください。

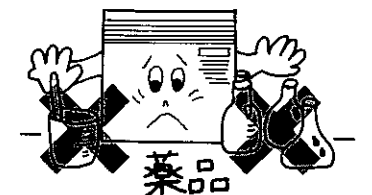
(2)給排気について

- この器具は屋外用です。屋内への設置はしないでください。
- 給排気が十分できる場所（開放スペース）に設置してください。（詳しくは3～5ページ参照）



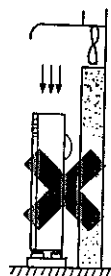
(3)設置場所のふん囲気について

- 業務用薬品を使用する場所はさけてください。
美容院・クリーニング店・工場などで使用される業務用薬品（アンモニア・イオウ・塩素・エチレン化合物・酸類など）を使用する場所には設置しないでください。器具を急速に腐食させますのでさけてください。

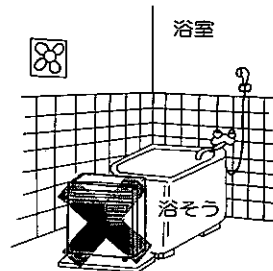


設置前のご注意

- 換気扇、レンジフードなどから風が器具の給排気に影響を与える場所への設置はしないでください。

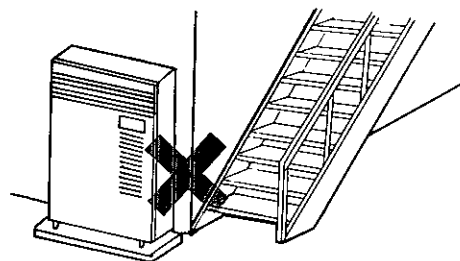


- 浴室には絶対に設置しないでください。
(不完全燃焼などの原因になります。)

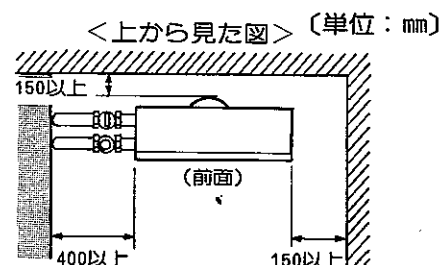


(4)設置場所の周辺について

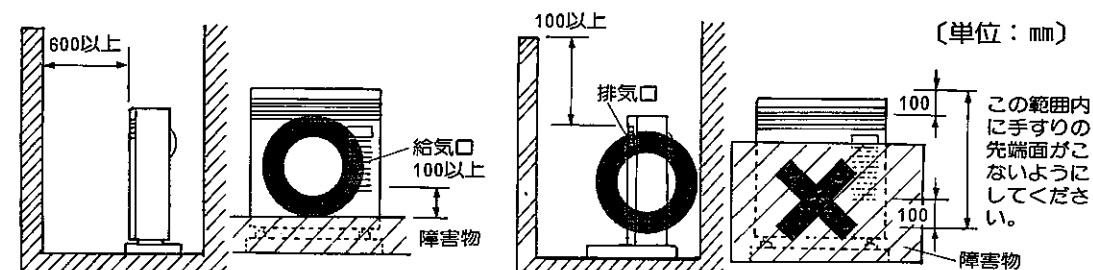
- ガスメータ、ガス配管、ガス容器、その他電気設備の直下や近くへの設置はさけてください。
- 人の出入りの激しい場所への設置はさけてください。
- 階段、避難口の近くへの設置はさけてください。



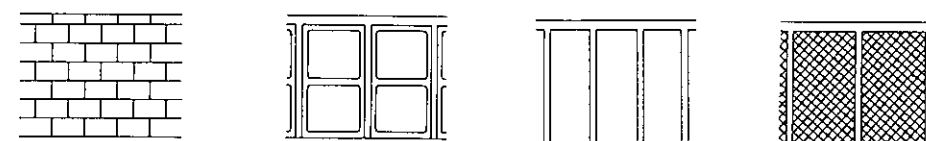
- 器具の右側方は150mm以上離してください。
また左側方は配管時のためのスペースとして400mm以上離してください。



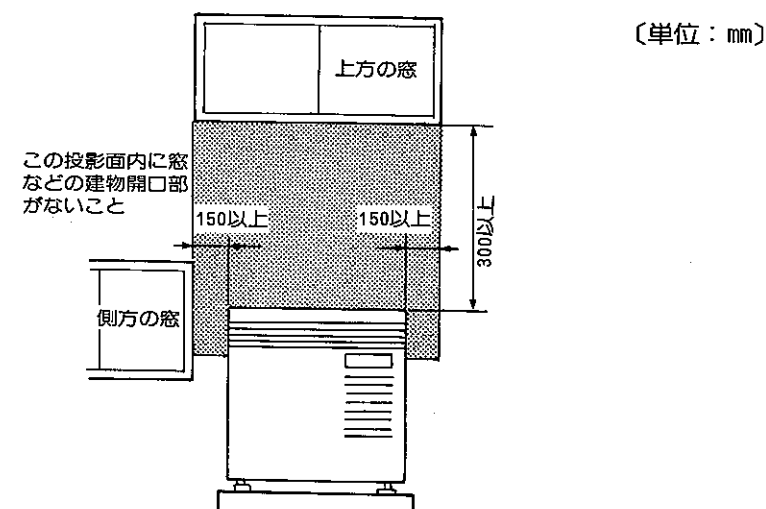
- 器具前方は保守・点検のために600mm以上離してください。また給排気に影響のある器具前方の障害物の高さは器具の給気口下端より100mm以上低くするか、または排気口先端より100mm以上高くしてください。



- 上の図に適用される障害物の形状
【ブロックべい】 【ボードなどの腰壁】 【こうし】 【網】
- 給排気に影響のない形状



- できる限り周辺に窓のない場所に設置してください。もし、上方に窓のある場合は300mm以上、側方に窓のある場合は150mm以上離してください。(室内に排気ガスが流入するのを防ぐため)
- 隣の家の窓付近などに排気ガスが吹付ける位置には設置しないでください。

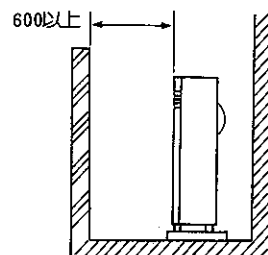


- 隣の家からなるべく離して設置してください。
壁などの反響によって音が大きくなる場合がありますので注意してください。

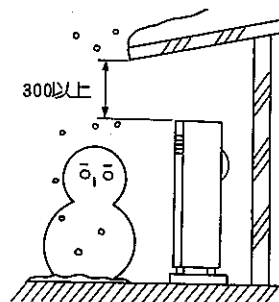
設置前のご注意

- ベランダなどが避難通路となる場合には、600mm以上の避難通路を確保してください。

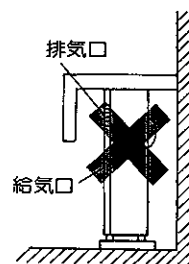
〔単位：mm〕



- 積雪で器具の給気口および排気口がふさがれるおそれがあるときは、防雪の設備を行なってください。



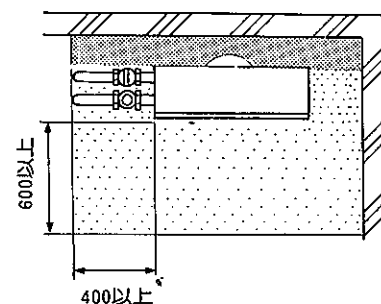
- 給排気口の周辺には障害物を置いたり、付けたりしないでください。排気が給気に逆流して吹き消えや、不完全燃焼の原因となります。



- その他、地域によって火災予防条例に規制される項目がある場合、その条例に従って設置してください。

(5)保守・点検のためのスペース

- 器具の点検・修理ができるように十分なスペースを確保してください。器具前方は600mm以上の空間を設けてください。



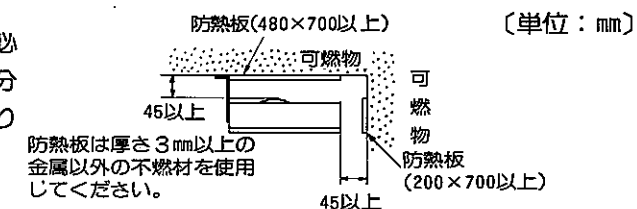
- 器具左側方は配管時のためのスペースとして400mm以上離してください。

■付帯設備工事について

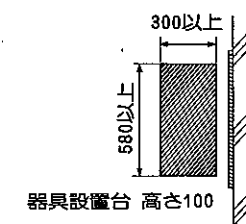
設置場所が決まりましたら、器具を設置する前に、次のような工事が必要です。

(1)床・壁工事

- 可燃性の壁の場合で器具との間に防火上必要な間隔をとれない場合は、可燃性の部分を防火上有効な防護措置をする必要があります。



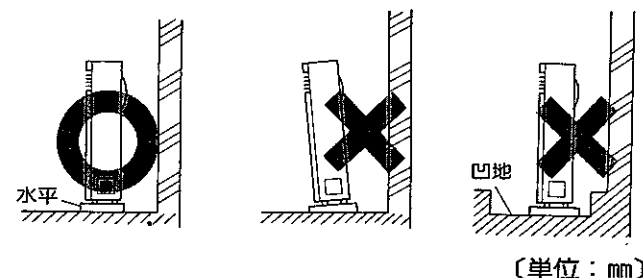
- この器具を設置する床には約21kgの重量が加わりますので、十分な強度がない場合、補強工事をしてください。



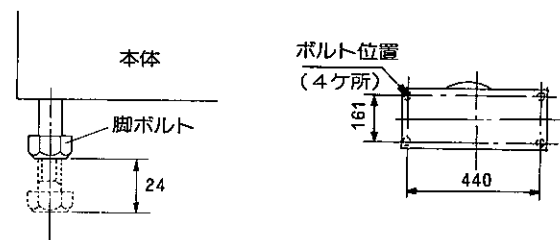
器具設置台 高さ100

器具の設置

- 床面は水平にしてください。
- 器具の設置面は凹地にしないでください。
(水やごみがたまりますので、不完全燃焼などの原因になります。)

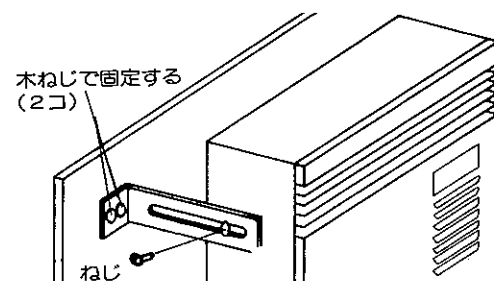


- 器具は不燃材の設置台の上に水平に据え付けてください。
器具の脚ボルトで調節してください。

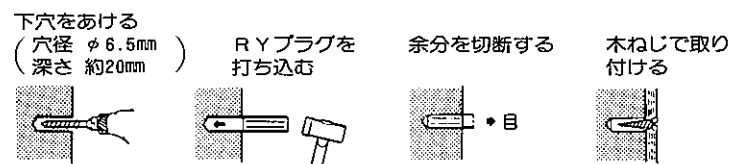


- 器具を壁面に固定金具で固定してください。
器具と壁面の距離は 150mm 以上としてください。

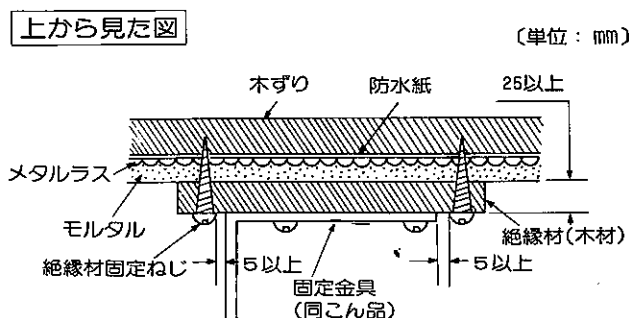
- ①固定金具を器具本体に M4 ねじで仮止めし、一端を壁面に合わせて壁面の穴位置を決めてください。
- ②固定金具を木ねじで壁面に固定してください。
- ③①項で仮止めしていた M4 ねじで固定金具を器具本体に固定してください。



〔注〕 コンクリート、モルタルなどの壁のときは、P Y プラグを壁に打ち込んでください。



- メタルラス張りなどの壁に器具を取り付ける場合は、器具とメタルラスとは電氣的に接続しないように右図のような壁工事をしてください。(電気設備技術基準第182条により義務づけられています。)



給水・給湯配管工事

- 配管工事は、給水事業者の指定工事店に依頼し、給水事業者の規定に従ってください。
- 配管接続口は、給水・給湯とも 15A (PT 1/2) となっています。
- 給水・給湯・ガス配管工事で器具の接続口と配管をするときは、必ずスパナなどを接続口のスパナかけ部にかけて、器具内部に無理な力がかからないように注意しながら、配管工事をしてください。

■給水配管

〈GW-16R5Dの場合〉

(1)給水圧力について

- この器具は点火するために、〔器具の作動水圧〕 + 〔給湯配管の損失水頭〕 (通水時) 以上の給水圧力を確保する必要があります。

必要給水圧 (器具入口圧) = 作動水圧 (0.3 kg/cm²) + 損失水頭 + α (余裕)

- 必要給水圧は給湯栓を全開にして通水したときの器具入口部の水圧です。
- α (余裕) は幅広い湯量を得るために 0.3 kg/cm² 以上を加算してください。
- 損失水頭は下表および 10~13 ページの「給水・給湯配管例」を参照し、計算してください。

- JIS の水道用亜鉛メッキ鋼管 (SGPW) および脱酸銅管を使用した場合の直管 1 m 当たりの損失水頭。

(単位: mm 水柱/m)

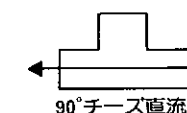
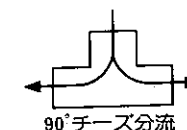
流量	水道用亜鉛メッキ鋼管		脱酸銅管	
	15A (1/2 B)	20A (3/4 B) 参考	13 (1/2)	20 (3/4) 参考
5 ℓ / 分	33	9	35	5.9
10 ℓ / 分	120	28	125	20

1000mm 水柱 = 0.1 kg/cm²

- 弁類・継手類局部抵抗の直管相当長さ

(単位: m)

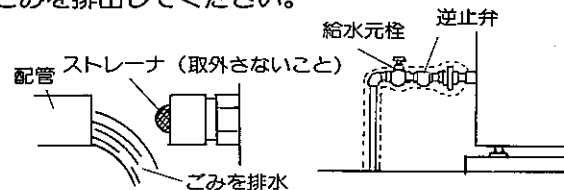
弁類の継手の種類	水道用亜鉛メッキ継手・弁類		脱酸銅継手	
	15A (1/2 B)	20A (3/4 B) 参考	13 (1/2)	20 (3/4) 参考
90°エルボ	0.60	0.75	0.15	0.30
45°エルボ	0.36	0.45	0.15	0.15
90°チーズ(分流)	0.90	1.20	0.30	0.61
90°チーズ(直流)	0.18	0.24	0.15	0.15
仕切弁	0.12	0.15		
ストップ弁	4.50	6.00		
アングル弁	2.40	3.60		



- 立ち上がり圧力損失は 1 m 当たり 0.1 kg/cm² として計算してください。
- 給水管は水道管より直接配管してください。
- 特に高水圧地域では減圧弁 (別販品: AD-3224GBN) を必ず取り付けてください。

給水・給湯配管工事

- ポンプを使用される場合は出力200W以上のポンプを使用し、器具と給水元栓の間に減圧弁（別販：AD-3224GBN）を必ず取り付けてください。
- ポンプの圧力スイッチの設定圧は最低圧1.4kg/cm²以上のものを使用してください。（ポンプ本体の銘板で確認してください。）
- 【ご注意】出力200W未満や設定圧1.4kg/cm²未満のポンプを使用したり、減圧弁を取り付けなかった場合には、湯温が変動します。
- (2)器具の給水接続口の近くには、必ず給水元栓を取り付けてください。保守・点検のときや水抜き操作を行なうとき必要です。
- (3)給水管の接続を間違えないようにしてください。接続口を間違えると器具は使用できません。
- (4)器具の給水配管に逆流防止装置（逆止弁など）を取り付け、給湯側の水が逆流しないようにしてください。
- (5)器具に接続する前に、必ず水を流して配管内のごみを排出してください。



〈GW-16R6Dの場合〉

(1)水道本管より直接配管する場合（水道直結の場合）

- 給水配管は脱酸銅管13(1/2)を使用してください。
- 給水元栓と器具の給水接続口との間に、必ず減圧弁（別販：AD-3224GBN・設定水圧1kg/cm²）または減圧逆止弁（別販：AD-3223B3・設定水圧0.6kg/cm²）を取り付けてください。
- 【注】減圧弁または減圧逆止弁を取り付けないと、水圧1kg/cm²以上になると水量が多すぎて湯量調節がしにくくなります。
- 必要給水圧の計算結果より、減圧弁または減圧逆止弁のどちらかを取り付けてください。

(2)パナソーラと接続する場合

- パナソーラの蓄熱槽より直接配管してください。（水道直結にして使用することはできません。）
- 器具と給水元栓の間に減圧弁を取り付けしないでください。パナソーラに減圧逆止弁が設置されています。また、逆止弁は絶対に付けないでください。器具が誤動作するおそれがあります。

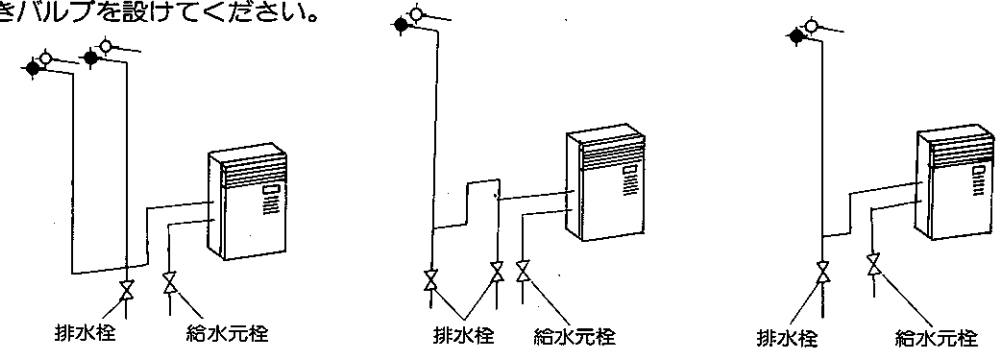
■給湯配管

- (1)配管は脱酸銅管13(1/2)の使用をおすすめします。
鉛管配管・塩ビ配管の使用は絶対にさけてください。使用している間に破裂する危険があります。
- (2)給湯配管はできるだけ短距離にしてください。
- (3)継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はさけてください。
- (4)必要以上の太い配管はやめてください。
- (5)給湯配管は空気だまりを作らないようにしてください。
配管中に空気だまりがあると、給湯栓を閉めてから給湯機のメインバーナが消火するまでに時間がかかったり、給湯機を使用しないときに、他の水道栓を開閉すると、給湯機のメインバーナに瞬間的に火がつくなどの現象が生じます。

- (6)給湯配管は水抜きが容易にできるようにしてください。

給湯配管は水抜きが容易なように1/100～1/200の先上がり勾配を付けてください。

- (7)給湯配管が万一、下図のようになったときは、水抜きができなくなりますので必要な箇所に水抜きバルブを設けてください。



- (8)シャワーセットはできるだけ圧力損失の少ないものを使用してください。

- (9)2階へ給湯する場合は、器具入口で1.5kg/cm²以上（通水時）の給水圧力が必要です。（詳しくは、必要水圧の計算をし、その値より大きな給水圧力を確保してください。）

■給水・給湯配管例

- 高温出湯型ですので必ず混合水栓を接続してください。

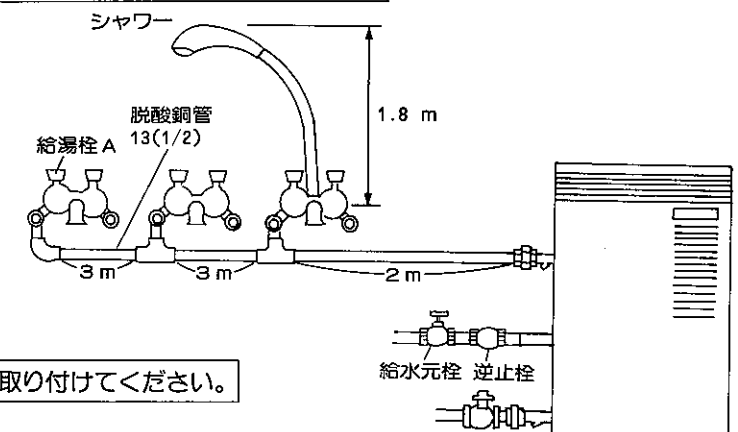
〈GW-16R5Dの場合〉

- (1)給湯配管は取り付けた給湯機とほぼ同じ高さで、できるだけ平面的に配管し、階下へは配管しないようにしてください。

- 給水配管材料、接続方法、シール材は、各市町村水道局（課）承認のものを使用してください。
- 給湯配管は、脱酸銅管の使用をおすすめします。

器具の給水接続口の近くに給水元栓と逆止弁を取り付けてください。

内部のごみ、工事材料くずなどを洗い出したうえで接続してください。



混合水栓は逆止機能付のものを取り付けてください。

上図のように3カ所に給湯配管した場合、配管1m当たりの損失水頭と弁類の相当管長を8ページの表を参照し計算しますと、給湯機の必要作動水圧は次表のようになります。従ってそれ以上の水圧がなければ給湯機を使用することができません。

（所定流量は10ℓ/分で計算しています。）

給水・給湯配管工事

(2)給湯栓Aを使用する場合

配管材料	脱酸銅管使用の場合	
圧力損失		
配管中の圧力損失	$(2+3+3\text{m}) \times 125 = 1000\text{mm}$ 水柱	1,075mm水柱
90°エルボの圧力損失	$0.3\text{m} \times 3\text{コ} \times 125 = 37.5\text{mm}$ 水柱	↓
90°チーズの圧力損失(直流)	$0.15\text{m} \times 2\text{コ} \times 125 = 37.5\text{mm}$ 水柱	約0.11kg/cm ²
最低作動水圧		0.3kg/cm ²
余 裕		0.3kg/cm ²
合 計(給湯機の必要水圧)		0.71kg/cm ²

(3)シャワーセットを使用する場合

吐出量10ℓ/分の圧力損失0.5kg/cm²のシャワーセットの場合

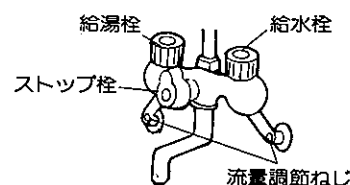
配管材料	脱酸銅管使用の場合	
圧力損失		
配管中の圧力損失・立ち上がり損失	$(2+1.8) \times 125 + 1800 = 2,275\text{mm}$ 水柱	約0.73kg/cm ²
シャワーセットの圧力損失	0.5kg/cm ²	
90°エルボの圧力損失	$0.15\text{m} \times 125 = 18.8\text{mm}$ 水柱	
90°チーズの圧力損失(直流)	$0.3 \times 125 = 37.5\text{mm}$ 水柱	
最低作動水圧		0.3kg/cm ²
余 裕		0.3kg/cm ²
合 計(給湯機の必要水圧)		1.33kg/cm ²

【注】シャワーセットの圧力損失はシャワーセットの種類によって異なりますので注意してください。

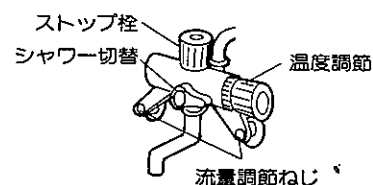
(4)シャワーセットおよび混合水栓

- シャワーセットは圧力損失の少ないものを使用してください。圧力損失の高いシャワーセットを使用されると、十分な湯量が得られない場合があります。
- 混合水栓(シャワー付、シャワーなし)には、いろいろな種類がありますが、次のようなタイプが使いやすいのでおすすめします。

ワンストップ混合水栓



サーモミキシング混合水栓



- 必ず混合水栓に付いている流量調節ねじで適切な湯温がとれるように調節してください。特に台所に取り付ける場合は給湯栓側の流量調節ねじを絞り、4~5ℓ/分程度にすると便利です。

〈GW-16R6Dの場合〉

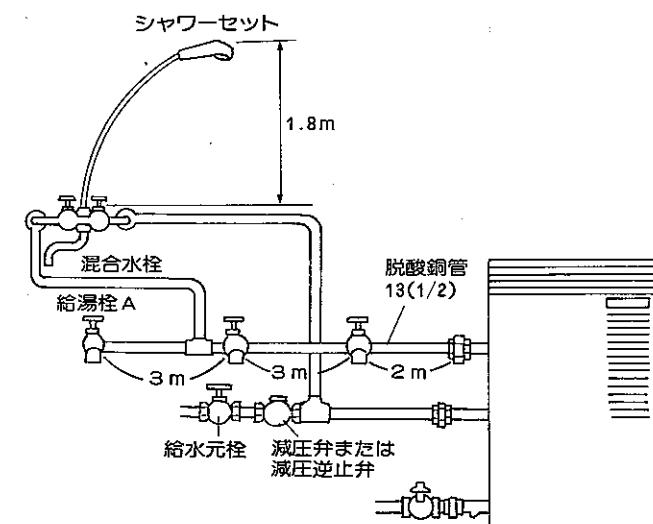
1. 水道本管より直接配管する場合の給水・給湯配管例

(1)給水・給湯配管

- 給湯管に空気だまりができないように配管し、空気抜きをよくするために、給湯管に上がり勾配を1/100~1/200程度付けます。なお逆U字配管は空気だまりができますのでさけてください。
- 給湯配管は取付けた給湯機とほぼ同じ高さでできるだけ平面的に配管し、階下へは配管しないようにしてください。

- 器具の給水接続口の近くに給水元栓、減圧弁または減圧逆止弁を取り付けてください。

- 給水配管材料は各市町村水道局(課)の承認のものを使用してください。
- 内部のごみ、工事材料くずなどを洗い出したうえで接続してください。



- 給湯配管は脱酸銅管を使用し、シール材は各市町村水道局(課)承認のものを使用してください。また接続方法は各市町村の条例に従ってください。

- 混合水栓、シャワーへの給水管は減圧弁または、減圧逆止弁の2次側(出口)から分岐してください。

(2)シャワーセットおよび混合水栓

- 11ページの(4)を参照してください。

給水・給湯配管工事

2. パナソーラと接続する場合の給水・給湯配管例〈GW-16R6D〉

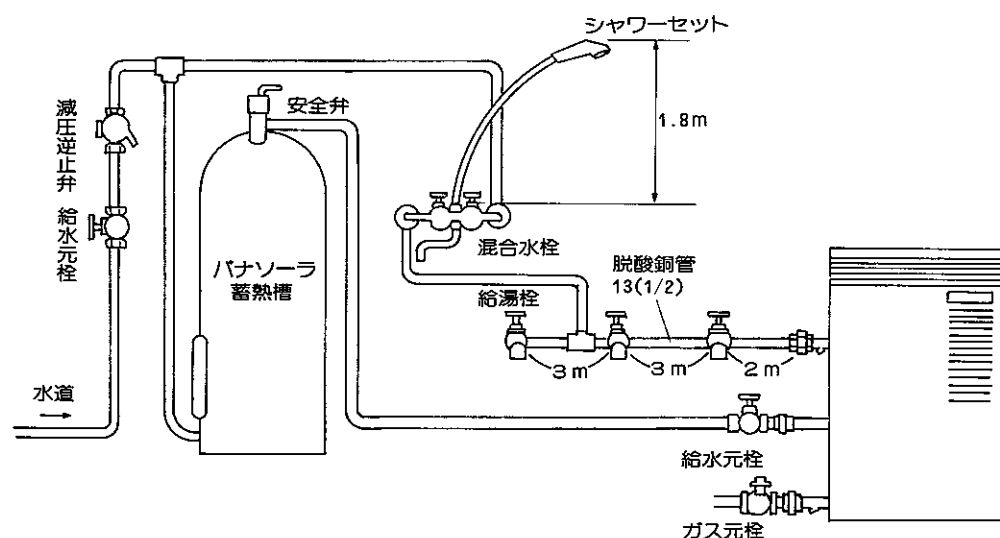
(1)給水・給湯配管

- 給湯管に空気だまりができないように配管し、空気抜きをよくするために、給湯管に上がり勾配を1/100～1/200程度付けます。なお逆U字配管は空気だまりができますのでさけてください。
- 給湯配管は取り付けた給湯機とほぼ同じ高さで、できるだけ平面的に配管し、2階への配管は絶対にしないようにしてください。
- 器具入口圧が約0.5kg/cm²になりますので、配管は脱酸銅管13(1/2)を使用してください。脱酸銅管13(1/2)より小さい口径の配管した場合には、十分な湯量が得られません。

●給水配管材料は各市町村水道局（課）承認のものを使用してください。

●混合水栓、シャワーへの給水管は減圧逆止弁の2次側（出口）から分岐してください

●内部のごみ、工事材料くずなどを洗い出したうえで接続してください。



●給湯配管は脱酸銅管を使用し、シール材は各市町村水道局（課）承認のものを使用してください。また接続方法は各市町村の条例に従ってください。

(2)器具設置場所

- パナソーラの蓄熱槽から600mm以上離れたところで、できるだけ近い場所に設置してください。
- パナソーラの蓄熱槽と同じ高さの床面に設置してください。

(3)シャワーセットおよび混合水栓

- 11ページの(4)を参照してください。

■凍結防止

- 配管は必ず保温材（厚さ25mm以上）で被覆してください。
- 冷え込みの厳しい地域では、さらにナショナル水道凍結防止器（品番：DR2232、30W以上）を配管およびバルブ類に巻いて、十分な保温を行なってください。
- 配管内の水抜きが容易にできるように措置をしておいてください。
- 水抜き方法は、取扱説明書の7ページをご需要家様に説明してください。

ガス配管工事

(1)ガス元栓

器具を使用する場所にガス元栓がない場合、あるいは、あっても位置や寸法などが適切でない場合には、新設・移設または交換などが必要ですのでガス供給業者にご相談のうえ、ガス元栓を必ず取り付けてください。

(2)ガス接続

- ガス接続口には、かならずユニオンを取り付けてください。

ガス種	配管径（配管長さ20mまで）
L P ガス 用	15A (PT 1/2)
都 市 ガス 用	20A (PT 3/4)

- 配管接続は、ガス供給業者の指定する工事店に依頼し、ガス供給業者の指定する材料および工法で行なってください。

(3)LPガス用ガス容器の容量にご注意ください。

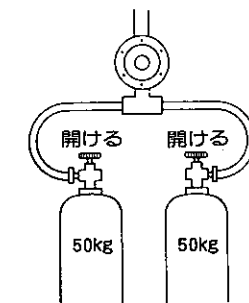
- 器具だけをお使いになるときの適用LPガス用容器は下表のとおりですが、長時間の連続使用、他のガス器具との同時使用、冬期にLPガス用容器のガス発生量が低下することを考慮して適当に増加してください。

表示ガス消費量	ガス容器数
2.52kg/h	50kg型………2本併設

〔参考〕

冬期蒸発量（0℃連続使用）

10kg型	0.3kg/h 最大
20kg型	0.6kg/h 最大
50kg型	1.5kg/h 最大



- LPガス用調整器は、表示ガス消費量に見合った家庭用・業務用の低圧調整器を使用してください。

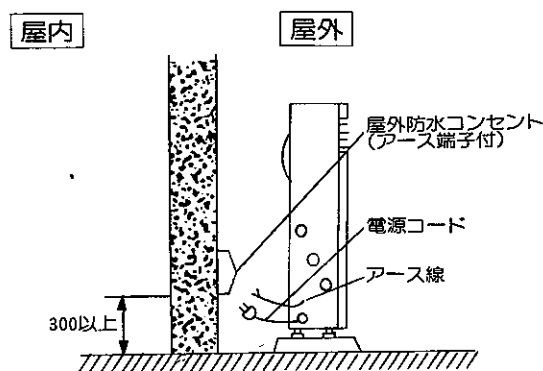
〔ご注意〕工業用の中・高圧用は絶対に使用しないでください。

電気配線工事

■電源工事

- この器具にはAC100Vが必要です。
- 電気配線については、電力会社の指定工事店にご相談ください。
- できるだけJIS防雨形防水コンセントを設置してください。
- 防水コンセントは、地上より300mm以上の高さの位置に取り付けてください。

(単位: mm)



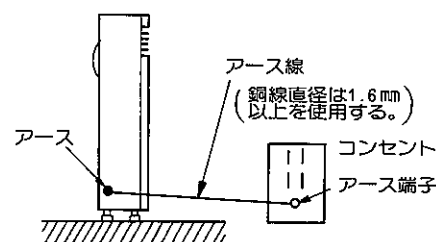
〔ご注意〕

- コンセントとガス管および水道管とは100mm以上離してください。

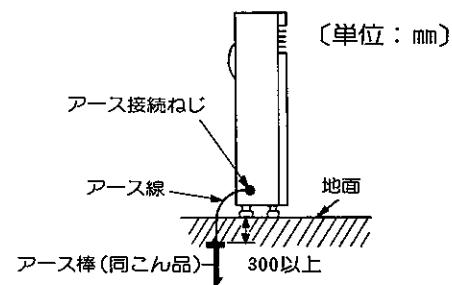
■アース（接地）工事

- 万一の感電事故防止のため、右図のいずれかの方法で必ずアースしてください。
- 防水コンセントにアース端子が付いていない場合は、別途、電気設備基準に基づき、必ず電気工事士による第3種接地工事を行なってください。
- アース線の接続端子は本体の側面にアース表示、また本体内部の電装ユニット下部にアース表示で示してあります。

- コンセントにアース端子が付いている場合



- アース棒を使用する場合



〔ご注意〕

- アース端子付コンセントを利用される場合には、接地抵抗値(100Ω以下)をご確認ください。

設置工事後の点検確認

設置および工事が終わりましたら、もう一度確認してください。

■器具およびその周辺 (2~7ページ参照)

- (1)可燃物との距離および火災予防上の処置は十分ですか。
- (2)器具の設置場所のふん囲気は大丈夫ですか。
- (3)点検・修理などの保守・管理上必要な空間がありますか。
- (4)設置条件を満足していますか。

■給水・給湯配管

給水元栓を開け、配管中の空気を抜くために全部の給湯栓を開けて、水が出ることを確認したあと、全部の給湯栓を閉め、しばらく放置してから水漏れがないか調べてください。このときは器具本体の運転スイッチを「切」にしてください。

■ガス配管

ガス元栓を開け、各接続部に検知液、または石けん水を塗り、ガス漏れがないか調べてください。

■電気配線工事 (15ページ参照)

接地工事はされていますか。

- 工事終了後前板のねじが確実に締まっている事を確認してください。

試点火および試運転

■試点火および試運転

- (1)取扱説明書に基づき、試点火および試運転を行なってください。
(詳しくは、取扱説明書の4~5ページの「器具の使用方法」をお読みください。)
- (2)初期運転時に異常が発生しましたら、取扱説明書の8ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照しながら確かめてください。
- (3)試運転が終わりましたら、給水元栓・ガス元栓を閉め、電源プラグを持ってコンセントから抜いて、凍結防止のため水抜きを必ず行なってください。(取扱説明書6~7ページ参照)

■お客様への説明

- (1)取扱説明書によって、取扱方法をご説明ください。特に「特にご注意していただきたいこと」「器具の使用方法」をよく説明してください。
- (2)保証書に必要事項を記入のうえ、需要家様にお渡しください。また取扱説明書に従って「アフターサービス」についてご説明ください。
- (3)この工事説明書は取扱説明書とともに需要家様にお渡しください。

仕 様

品 名	ガス給湯機	
品 番	GW-16R5D	GW-16R6D
種 類	給 湯 方 式	先 止 め 式
	設置・給排気方式	屋 外 用 ・ 強 制 排 気 式
点 火 方 式	放 電 点 火 式	
水 圧	使 用 水 圧	0.7kg/cm ² 以上
	作 動 水 圧	0.3kg/cm ²
外形寸法	本 体	高さ700×幅480×奥行200mm
重 量	本 体	21kg
接 続	ガ ス	LPガス用15A(PT1/2)・都市ガス用20A(PT3/4)
	給 水	15A(PT1/2)
	給 湯	15A(PT1/2)
電気関係	電 源	AC100V・50/60Hz
	消 費 電 力	LPガス用：145W(給湯時49W+凍結予防ヒータ96W) 都市ガス用：143W(給湯時47W+凍結予防ヒータ96W)
	電源コードの長さ	1.8m
湯 温 調 節	60℃定温	
湯 温 制 御 方 式	電子式ガス比例制御方式	
器具本体の表示ランプ	運転ランプ・燃焼ランプ	
安 全 装 置	立消え安全装置・過熱防止装置・過圧防止安全装置・誘導雷保護装置・漏電安全装置 凍結予防ヒータ・空だき安全装置・沸とう防止装置(GW-16R6D)	
附 属 品	固定金具・アース棒・取付ねじセット	
別 販 品	オプションコントローラ・配線ケーブル	

使用ガス 使用ガスグループ	型 式 名	1時間あたりの ガス消費量(最大)	1時間あたりの ガス消費量(最小)	出湯能力(ℓ/分)(水圧：1kg/cm ² 時)	
				水温+25℃上昇	水温+40℃上昇
都 市 ガ ス 用	4 A				
	4 B				
	4 C				
	5 A				
	5 AN				
	5 B				
	5 C	30,100kcal/h	約6,500kcal/h	(16)	(10)
	6 A				
	6 B	30,100kcal/h	約6,500kcal/h	(16)	(10)
	6 C	30,100kcal/h	約6,500kcal/h	(16)	(10)
	7 C	30,100kcal/h	約6,500kcal/h	(16)	(10)
	12A				
LPガス用	13A	30,100kcal/h	約7,200kcal/h	(16)	(10)
		2.52kg/h	約0.58kg/h	(16)	(10)

・出湯能力の()内は、水温+25℃上昇に換算した号数です。
・使用ガスグループ中の空らんは生産しておりません。

外形寸法図

(単位：mm)

